

## 事業評価表（平成28年度（1年目）実績分）

事業名	経営発達支援計画	カテゴリ	地域活性	担当者	
事業期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日	評価委員会実施日	開始	H28. 7. 11	最終 H29. 2. 15

### （1）事業計画（PLAN）及び実施（DO）

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに地域関係機関と共同で飯塚市地域経済活性化協議会の設置をする。</li> <li>・新たな地域イベントを立ち上げるために準備会議を設置し方向性を検討する。</li> <li>・地域内の有力な観光資源である長崎街道内野宿場町並みを地域内外へPRする。</li> </ul>	活動・手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯塚市、金融機関、観光協会、JA等外部機関と協議会を設置し年2回開催する。</li> <li>・計画期間内に新たな地域イベントを行うための準備会議を実施し、飯塚市との協議を行う。</li> <li>・内野宿観光ハンドリーフを作成し地域内外に設置する。また、地域外イベントに出展しハンドリーフ配布、DVD配信等でPRを行う。</li> </ul>		
目的	飯塚市地域経済活性化協議会の設置により外部機関と多面的な情報交換を行い小規模事業者へ情報提供することを目的とする。また、新たな地域内イベントの開催は、地域の小規模事業者の商品やサービスのPRと、消費者ニーズの把握を目的としている。地域外への観光PRは地域への観光客流入増加により、地域商業の消費増加も目的としている。				
成果指標	指標の名称	単位・式	28年度	中間	最終
	・飯塚市地域経済活性化協議会の設置	回数	目標	2回	0回
			実績		
			達成率		
	・新たな地域イベント開催による地域情報発信	準備会議回数	目標	5回	2回
			実績		
			達成率		
	・内野宿場町並みの観光資源を活かした地域情報発信	回数	目標	2回	1回
			実績		
			達成率		
			目標		
			実績		
			達成率		
			目標		
			実績		
			達成率		

### （2）事業費等の推移・内訳

財源内訳	予算額	決算額	摘要	特記事項
国庫補助金	50,000	50,000	内野宿観光PR出展費	
一般財源	0	0		
合計	50,000	50,000		

### （3）定性評価

事業分析 <<担当者（チーム）評価>>	
事業を取り巻く環境の変化	<p style="margin: 0;">（消費者ニーズ、国・県・市の動向など）</p> <p style="margin: 0;">地域経済活性化事業については、地域経済に関する情報交換の場が不足していたためニーズは存在する。また、今年実施したアンケートによると地域小規模事業者の販路開拓の機会を望む声も聞かれる。地域の観光PRについても地域外からの消費流入の有効な手段としてニーズがある。</p>

事業の進捗状況	判定 <b>C</b> A : 計画通り進捗した B : 概ね進捗した C : 進捗しなかった
	(その理由、執行上発生した問題点など) 地域経済活性化事業に関しては、商工会単独で実施することは困難であり飯塚市、金融機関他外部機関、近隣商工会との連携が不可欠であったが他の事業（経営分析、需要調査、事業計画、販路開拓）のように事業ごとの連携に終始してしまい全体的に情報交換する場を作れなかった。また、商工会内部で地域経済活性化事業の方向性について明確にしきれていない状況であり、今の状況では他団体との連携は見通しが立っていない。長崎街道の内野宿場町並みを活かした観光PRについては、ハンドリーフを2種類、各3,000部ずつ作成し、1月18日、19日（九州食の展示商談会観光ブース）に出展し配布PRを行った。他に福岡市観光案内所（天神、博多駅）や飯塚市、近隣市町村にも配布設置している。
事業の成果	判定 <b>C</b> A : 目的を達成した B : 概ね達成した C : 達成できなかった
	(その根拠、理由) 今年度は、活性化協議会の設置を実施できなかったため2年目には早期に設立を実施し各機関との情報交換連携を進めたい。地域イベントについては、商工会内部で事業内容の方向性を検討している段階でその後飯塚市等外部団体との協議に入るため次年度の開催は困難な状況である。観光PRについては、まだ実施したばかりであるが直近のイベント3月26日「内野宿流しびなと写真展」等問合せが増えている。

#### (4) 評価 (CHECK)

評価項目	判定	評価内容	事業分析 《一次(中間)評価》
①進捗状況	C	A : 計画通り B : 概ね計画通り C : 計画通り進捗せず	地域活性化事業については、外部機関等との連携が進まなかったことにより進捗が見られず、見直しが必要と思われる。
②事業成果	C	A : 成果は大きい B : 一定の成果 C : 成果は少ない	①の理由から、成果も少ない
③妥当性	B	A : 高い(十分) B : 見直しの必要性 C : 低い(不十分)	①の理由から、見直しが必要。
④有効性	B	A : 高い(十分) B : 見直しの必要性 C : 低い(不十分)	①の理由から、見直しが必要。
⑤効率性	B	A : 高い(十分) B : 見直しの必要性 C : 低い(不十分)	①の理由から、見直しが必要。
⑥公平性	B	A : 高い(十分) B : 見直しの必要性 C : 低い(不十分)	①の理由から、見直しが必要。
⑦資源配分	C	A : 縮小方向 B : 現状維持 C : 拡大方向	今期達成できなかった点を強化するとしたら拡大が必要と思われる。

#### 事業分析 《二次(最終)評価》

事業結果に対する総評	(進捗状況・事業成果等に対する総評) 地域活性に対する総評は、CからBの評価が多い。  1年目としては、協議機関との連携を協議する場の設定が出来なかったことで、進捗が見られなかったというのが事実である。2年目は早めに連携を進め、具体的な事業に着手できる体制を構築することが急務である。
方向性の判断	(理由：事業の優先・重点化の必要性など)  地域活性は、伴走型支援を下支えする事業として重要な事業なので、2年目はより一層の重点的な取り組みが求められる。

#### (5) 改善・改革 (ACTION)

事業の方向性	判定 <b>B</b> A : 継続 B : 変更継続 C : 休止 D : 廃止 E : 終了
	(事業実施上の課題等)

事業の課題	<p>(地域活性)</p> <p>外部との連携による協議会が設置されていないので、具体的な施策が進められないのが一番の問題である。</p>
今後の取組／見直し案（活動・手法等）	<p>(上記の「事業の課題」に対する改善策又は事業の今後の方策等)</p> <p>今後の取り組みとしては、2年目の早い段階で外部の協力を仰いで連携を進め、協議を行ってそれぞれの役割分担を明確にし、地域活性化に向けた具体的な方策をスタートすることが求められる。</p>
その他	<p>一定の成果が上がることで職員の意識向上につながり、それがまた成果につながるという好循環のスパイラルアップが期待できる。</p>

